

みどりのこえ

春号
2013

長野県環境保全研究所

平成25年(2013年)3月15日発行

●飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷 2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929
●安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村 1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415
URL: <http://www.pref.nagano.lg.jp/xseikan/khozen/> E-mail: kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp



隠岐島 流紋岩の壁に咲くダルマガキ(大陸性の植物)。(小池忠明氏写真提供)

ジオパークと自然の理解

文 小泉 武栄

最近、ジオパークが新聞などで取り上げられることが増えてきた。ジオパークとは、貴重な地形・地質や、景観として美しい地形や地質を生かした「大地の公園」で、いわば世界遺産の地形・地質版である。ただ特異な地形・地質の上に成立した生態系や植生、さらには棚田のような文化遺産も含んでいるから、いわば自然景観そのものをテーマにした公園ともいえる。

ジオパークは世界遺産と同様、ユネスコが主導して始まったが、これは今後のわが国の自然教育や観光に、大きな影響を与える可能性を秘めている。たとえば観光地に行くと、観光客にガイドが何か説明していることが多い。ただそのほとんどがその歴史に関するものか、「あの岩は獅子岩といいます」といった類の愚にもつかない話が多い。目の前に雄大な景色が展開しているのに、そのでき方についての解説などないのが普通だし、不思議な地形を見て、なぜこんな地形ができたのかという説明もない。珍しい植物があってもただ名前を教えてそ

れでお終いである。これでは余りにも情けない。

しかしジオパークでは、ガイドは訪問した人に科学的に説明することが求められる。たとえば「キタダケソウは石灰岩地にもみ分布する植物だが、生育の場となっている石灰岩は南太平洋の海底で生まれた」といった説明である。石はものをいわないから、「この石は何億年前にできた石で、こういう理由でここにある」、「この海食崖はこういう仕組みでできた」などということ、人が石に代わって説明するのである。

わが国では自然史教育が欠如しており、そのため国民は自然の生い立ちや景観の形成メカニズムについてほとんど知らないままに時を過ごしてきた。その結果が観光地での解説である。しかしジオパーク的な解説が普及すれば、それは他分野にも波及するに違いない。私がジオパーク活動に期待する所以である。

こいずみ たけえい(東京学芸大学・自然地理学教授)

Contents

【巻頭言】 ジオパークと自然の理解..... 1	【イベント報告】
【特集】 公開セミナー 2012	環境保全に取り組む市民大集合 2012 8-9
大雪のなか、熱々のセミナー開催 2-3	自然ふれあい講座を行いました 10
飯山の森と里の命のにぎわい 4-5	【フィールドノートから】最新 信州クマ事情 11
世界からみた木曽の魅力	【読書案内】..... 11
～本気で遺産をまもるためには～ 6-7	【お知らせ】平成25年度『自然ふれあい講座』のご案内 12